

「老化細胞」

「今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづの事につかひけり」で始まる竹取物語。国語の教科書にも古文の教材として載っている。そのエピローグで、かぐや姫から帝（みかど）に、手紙と薬が贈られる。その薬が不死の薬だったという。帝は手紙を読みひどく深く悲しみ、「会うことも無いので、こぼれ落ちる涙に浮かんでいるようなわが身にとって、不死の薬が何になろう」と詠み、かぐや姫からの手紙と薬を駿河（静岡県）にある日本で一番高い山で焼くように命じたとされる。「富士山」の名の由来とも言われている。

人間は古来より、永遠の生を求め、死の恐怖や別離の悲しみを克服しようとしてきた。年末の NHK 番組で、老化細胞を取り上げていた。老化細胞というのは、分裂が止まった細胞のことで、高齢者はもちろん、若者にも幼児にも存在する。加齢やストレスによって体内の組織に老化細胞が蓄積し、慢性炎症の発症・進展に関わっている。最近蓄積した老化細胞を除去することで、加齢関連疾患における病的な老化形質を改善する方法が開発されている。研究者によると、「人間の病気の多くは老化に伴って起きるので、将来的には病気そのものが減って、最大寿命まで健康に生きることができるよう社会が近づいてくるのではと思う。現在、平均寿命と健康寿命には10年近い差があり、この10年は医療や介護が必要な時間だが、これを限りなくゼロに近づけていくことができれば、生活は大きく変わっていきだろうと思う」と語る。とはいえ、永遠の命はあり得ない。人間を含めた哺乳類は一生の間に10～20億回の心拍数があると考えられており、小型動物ほど心拍が速いため寿命は短く、大型動物ほど心拍が遅いため寿命が長いと言われている。人間は最長でも120歳が限界か。

今日1月11日は、鏡開きだ。この風習は地域によって異なるが、一般的には正月飾りで使ったお餅を小分けに開いて、お汁粉にして食べる。宗教的にいえば、お供え物として神様が宿った鏡餅をいただくことでその力を授けてもらい、一年間の無病息災を願う。令和5年が新型コロナウイルスに感染しないで、元気に過ごせますように願いを込めて。

1月11日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 1 から整数 n までの和を求める公式を作りましょう。